

進路学習

部

重点
目標

学力向上

指導の重点		取り組みの結果	学校の自己評価と改善策	学校関係者評価委員より
内容	○学習訓練の徹底	○学校目標として設定し、取り組んでいる。(4月・7月・2月) ○「学習10の約束」の掲示	B ○「学習10の約束」の項目の中で重点的に指導する項目を決めて指導する。(立腰・チャイム黙想) ○委員会で学習調査を実施し、結果を放送で発表する。 ○できていない項目を掲示し、指導を徹底する。	○学習に集中するための環境(教室の雰囲気)を作り、繰り返し訓練を続けていけば、集中力を養うことにつながるのではないのでしょうか。 ○以前に比べ児童生徒の授業に対する姿勢がよくなったように感じます。
取り組み	○4月の学校目標として設定 ○教職員による指導と児童生徒による委員会活動を連携させて、自主的な学習に対する意欲の向上を図る。(学習10の約束、立腰、1分前着席、チャイム黙想)	○調査の結果、「立腰ができていない」「授業中の私語が多い」だったが、取組の結果、良くなってきている。		
内容	○9年間を見通した家庭学習の習慣化	アンケート(児童生徒) 【家庭学習の手引書を参考に取り組んでいる。】2.8	B ○「家庭学習の手引き」を参考にして家庭学習に取り組む。 ○各家庭での見届けが十分でないところもあるので、通信や懇談会等で呼びかける。中学部は、テスト前にチェックをしていただく。 ○「宅習見守り週間」を3学期も計画する。	○家庭学習は家庭・保護者の意欲に負うところが大きいので、その意識の向上を図ることが大事だと思う。 ○家庭学習は自主性が必要になります。保護者の協力は必要不可欠ですが、児童生徒の自主性を今後も伸ばしてほしいと思います。
取り組み	○家庭学習の手引きの見直しと改定版による指導、家庭への啓発。 ○宅習見守り週間の実施。(2学期・3学期)	アンケート(保護者) 【保護者として子どもの家庭での学習を見届けている。】2.8 ○「宅習見守り週間」の実施・・・提出状況が良かった。意欲的に取り組んでいた。		
内容	○読書活動の推進	○11月の取組より ・朝読書の取組により、落ち着いて本を読むことができた。 ・第1・第2図書室の利用が増えた。	B ○読書通帳を活用して読書量を増やす・・・多読賞の設定 ○図書室の整備・・・本の紹介 ○読み聞かせボランティアの継続(来年度は中学部もお願いしたい。)	B ○本に頼らなくても簡単に情報を得られる今日、幼い頃(低学年)に本に興味を持つことで、読書の習慣もついてくと思う。やはり家庭での読み聞かせが大きいと思う。 ○パソコンやスマホに頼らない(本を読むことへの)一人一人の楽しみを見つけさせることが大事だと思います。 ○書かれている内容を理解することが大切と思う。 ○貸出冊数の増加は児童生徒の知識を増やし、視野を広げ、将来の選択肢が広がります。よい傾向だと思えます。 ○読書の習慣がついていないように見受けられる。常に本を携え開く姿を見たい。 ○読み聞かせを中学部にまで広げるにはボランティアを一般の方だけに求めるのは限界がある。保護者の協力をお願いしたい。
取り組み	○図書支援員の先生との連携。(図書室掲示、新刊本の整理、新聞掲示) ○読み聞かせボランティアの活用。 ○読書貯金通帳(例)を利用した読書記録を習慣づけ、読書に対する意欲を高める。	○貸出し冊数は昨年度に比べて増えている。 昨年度2学期・・・1396冊 今年度2学期・・・1999冊 ○図書室が整備された。 ○図書の購入・・・50冊以上増		